

第 4 回安曇野市消防委員会 会議概要

1	審議会名.....安曇野市消防委員会...
2	日 時.....平成30年11月20日 午後 6 時30分から午後 8 時15分まで.....
3	会 場.....本庁舎 3 階 306会議室.....
4	出席者.....松田委員長、曾根原職務代理、小穴委員、丸山委員、小出委員、 寺畑委員、二木章委員【欠席】、平倉委員、飯田委員、小松委員、 上兼委員（署長）、二木弘委員（団長）.....
5	市側出席者.....危機管理課 古幡課長..... 消防防災係 竹内係長、増田副主幹、山田.....
6	公開・非公開の別.....公開.....
7	傍聴人.....0人 記者 0人.....
8	会議概要作成年月日.....平成30年11月30日.....
協 議 事 項 等	
1	会議の概要 <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委員長あいさつ 3 会議事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 諮問事項について審議 「消防団組織と消防団員定数等の見直しに関すること」 (2) その他 4 閉会
2	審議概要 <p><u>(1) 諮問事項について審議「消防団組織と消防団員定数等の見直しに関すること」</u></p> <p>諮問書（2）女性消防隊・本部隊の分団格への昇格について</p> <p>委員長：前回から時間か経っているということもあるため、もう一度現状を確認したい。</p> <p>委員（団長）：消防団としては、女性消防隊は分団格に昇格、本部隊は現状どおりという意見がある。ただし、本部隊については班長以上の階級をお願いしたいと考えている。</p> <p>委員長：本部隊の階級はどうなっているのか。</p> <p>委員（団長）：全員団員となっている。</p> <p>委員長：階級はどの階級を考えているのか。</p> <p>委員（団長）：部長又は班長階級で考えている。そうすれば上下関係ができ、活動にも責任が持てる。</p> <p>委員 6：本部隊長は副団長が兼務している。内規で代表を決めている状態で、格付けもなく団員となっている。</p> <p>委員長：それでは、委員の皆さんの意見を伺いたい。</p> <p>委員 1：消防団の意向に沿った形で良いと思う。本部隊は強制的に分団格にしても良いものが生まれない。女性消防隊は分団格に上げて、更に充実した活動をしていただきたい。</p> <p>委員 2：女性消防隊は分団格にして、分団長、副分団長、部長、班長がいる組織を作っていただきたい。本部隊は分団という扱いではなくても組織機能を作っていく必要がある。</p>

委員 3 : 女性消防隊は分団格の組織として一個分団として活動していただけたらと思うが、分団長以下の構成については、組織の大きさによって判断していただきたい。本部隊は部長という話があったが、その上が今までどおり副団長なのか明確にしたい。できれば本部隊だけでも動けた方がいいので、きちんとした階級を設けて動きやすくしてあげた方が良くと思う。

委員 4 : 女性消防隊については分団ということになるのか、名称もわかりやすく決めていただきたい。活動報告を見ても分団にふさわしい活動をしているため、分団同様の階級を付けてモチベーションを上げたり、組織の流れを良くしたりとか考えていただければ良い。本部隊については隊を揃えて分団格にしたらどうかと考えていたが、時代と共に、活動によって組織というものは変えていくべきだと思うので、消防団として一番スタイルの良い形をとっていきべきだと考える。

委員 6 : 女性消防隊にあつては隊長が分団長格であるのは良いと思う。本部隊については副団長が隊長を兼務するのではなく、独立した隊として機能すれば良いと考えていたが、現在の消防団の状況から話し合っていた中での結論だと思うので、ゆくゆくは独立した隊を目指していただく必要があると思うが、その時は分団長格が良いのではないかと。蛇足になるが、音楽喇叭隊も分団長格が妥当ではないかと思う。隊長というものは分団長格であるという形で整えていった方がわかりやすい。活動についてもできる範囲でレベルアップを図り、特に本部隊はもう少しやれることを模索していく必要があると感じている。

委員 7 : 前々回の消防委員会で説明を受けたときに、本部隊も分団格への昇格が必要かと思つたが、消防団の現状から望まないということであれば、女性消防隊は分団格へ、本部隊は現状維持で良いのかと思う。

委員 8 : 女性消防隊を分団格へ昇格させるのは賛成である。一方、本部隊は積極的に昇格を望まないのであれば、階級のみで考えていけば良いと思う。

委員 (署長) : 女性消防隊に関して、松本市は女性消防隊という組織がなく、各分団に女性が入っている状態で、塩尻市にあつては音楽隊に入っている状態となっている。資料の活動報告を見ればわかるとおり、女性消防隊はすばらしい活動をしているため、今以上に盛り上げていき、ひとつの目玉にしないといけないので分団格に格上げて良いと思う。本部隊に関しては、階級を付けていくということが良いと思う。

委員長 : 委員全員の意見をお聞きしたが、皆さん同じ意見だと思う。その中で本部隊の班長の数はどのように考えているのか。

委員 (団長) : 階級が必要という中で、内規の班長にするのか、隊長を副分団長まで上げて、隊長1名で部長2名の班長4名とか考えられるが、今、本部隊は18名いて、市の職員が主で活動しているため、夜間や休日等のいろんな制約はあるが、昼間の火災や災害等があればすぐに出勤できる。階級を付ければ一生懸命に活動ができるのではないかと。そのために、隊長になった人が本部隊を辞めたときに下から上がってこられるという形を作りたいと思つているがどうか、皆さんの意見を聞きたい。

委員 2 : 旧明科町消防団では本部長というのがあり、役場の人ではなく民間の人から選出していた。部員は役場の人もいた。分団をまとめる役割を担っていて、他に団行事の司会など先頭に立ってやっていて、階級は分団長格だった。

委員 3 : 本部隊の役割というか責任範囲というか、分掌事務を見ると災害発生時のことにまで触れているが、その辺の具体的な動きを説明いただきたい。

委員 (団長) : 消防委員会資料の13ページに平成29年度の本部隊の事業計画があるので見ていただきたい。本部隊の役割としては、市役所職員が中心となっているため、昼間の火災にはいち早く出勤できるという中で、現場での交通誘導や本部指揮隊の補助、解散式の司会等を行っている。行方不明者捜索については昼間の捜索になるため出ているが、各分団で見られない場所を中心に活動してもらっており、その際のお茶やお昼の買い出し等も行っている。

また、消防団行事の教育訓練、ポンプ操法大会（市・松本消防協会外）、出初式、音楽喇叭隊演奏会等の前日準備や司会など、団幹部や危機管理課と一緒に運営補佐している。なお、人数は今のところ18名という中での限られた活動になっている。通常、市役所職員は地元の分団に入っているが、本部員は市外の皆さんが主となっていて、すぐに市庁舎から出動できるという利点がある。ただ、消火活動はできないため分団格は難しい。現状では、市外の職員はなかなか増えていかないため、本部員は辞められない状況になっているので、その辺はこれからの課題だと思っている。

委員3：活動のメインは平日の昼間ということになりますね。あとはどこまで入り込むかということが出てくると思う。時間的な制約とか、どの部分で消防団本体にバトンタッチするとかのルール決めとか、班の構成とか、先ほど継続の話があったが、逆に考えれば果たしてそこまで人数がいるのか。毎年市外から市職員が入るとも限らないわけで、例えば3年から5年くらいのスパンで交代するとかルールを決めていただいて、市職員の方にあまり負担をかけない方がよい。あまり人数を増やしてしまったことで、大規模災害が起きたときに市職員は全ての場所で行動を起こすはずであるため、その人が消防団に入った方がいいのかどうかのバランスも検討してほしい。

委員長：市の職員が中心でずっと本部隊という訳にはいかない。今は本部隊ができて浅いから良いが、将来的なことも考えると、活動内容を見ながら人数も考えていく必要がある。階級の件について、女性消防隊は分団格に上げて、本部隊については様子を見ながら動きやすい体制を作っていくために役職を付ける。それは消防団に任せる。即急に組織作りをして報告してもらいたい。

諮問書（1）正副団長5名体制からの3名体制への移行について

委員長：前回の消防委員会の中で、どのようにしたら正副団長の人数を減らせるのか、消防団にお願いしてあるので、その結果を委員（団長）から発表いただきたい。

委員（団長）：消防団各ブロックと各隊で話し合った結果をまとめたところ、単に人数を減らせばいいという話ではなく、出動範囲等の見直しと組織の改革をやらないとできないのではないのか。スリム化して負担を減らそうという中でいろんな意見が出たが、3名体制は難しいという意見があり、広域消防局の管轄区域と同じ4名体制として、第1ブロック（豊科）と第4ブロック（堀金）を一つにすればよいのではないかという意見もあった。それと、副団長の仕事を見直して代表分団長が変わって行うという意見もあった。代表分団長については、消防団規則では置いていないが、各ブロックの運用で決めている。ただ、そうすると昔の方面隊長のようになってしまうためいかなものかと思う。あと、今は5つのブロックのうち、団長が1つのブロックを担当して、残りの4つのブロックを副団長が担当しているが、同じ5名体制であっても、団長はトップでブロックを担当せずに、第1ブロック（豊科）と第4ブロック（堀金）を一つにしたブロックを1名の副団長で、第2ブロック（明科）、第3ブロック（穂高）、第5ブロック（三郷）をそれぞれ1名というようにスリム化する。そうすることで、副団長選出の課題も解消されるし、各分団への指示は団長からではなく、副団長から出すような組織体制になる。

委員長：第1ブロック（豊科）と第4ブロック（堀金）を一つにしても問題ないか。

委員（団長）：第1ブロック（豊科）5名と第4ブロック（堀金）1名の分団長に集まってもらい話したが、実際に同じ消防署管轄ということで、毎年訓練や交流を行っているという中で、このような意見が出た。

委員長：消防団からの報告についてはどうか。

委員4：スリム化を考えていなければならないが、現状としてはということで消防団の意見をまとめていただいたと思う。出動体制とかブロックの見直しというものがまずあって決めていけば良いと思うので、消防団から出た意見は尊重したい。

委員長：今の体制をどこで見直すのか。いつ頃になるのか。ある程度の見通しがないと答申もできない。

委員（団長）：早急にもっていききたいし、できると思う。消防団として火災出動の車両数などの見直しをしている。第1ブロック（豊科）と第3ブロック（穂高）は1次と2次出動が確立されているが、第4ブロック（堀金）は車両が3台のため、2次出動で増隊するには第5ブロック（三郷）を一緒することを考えている。あと、第2ブロック（明科）はどうするのかなど整えた後に、第1ブロック（豊科）と第4ブロック（堀金）を一つにするという話をもっていききたい。

委員4：消防署としての意見を聞きたい。

委員（署長）：消防署としては管轄があるので、署ごとにあった方がやりやすいし、団の人とのつながりもあるため、この方向性で良いと思う。

委員4：第4ブロック（堀金）と第5ブロック（三郷）は、消防署の管轄がちがうのでそこが気になったので聞いてみた。

委員（署長）：第4ブロック（堀金）と第5ブロック（三郷）の火災には、どちらにしても消防署は豊科と梓川が行くので、そこは問題ない。

委員（団長）：副団長から団長に上がるという中では、今後、松本消防協会や県の協会長などいろんな役職が回ってくるが、無理やり副団長に上げるのではなく、そういった見直しもスリム化するには必要だと考えて決めていかないと難しい。各ブロックでも消防団を背負って立つような副団長を出してもらえるような組織づくりをしていかないといけない。第1ブロック（豊科）と第4ブロック（堀金）を一つにした場合は、第4ブロック（堀金）で候補がいなければ第1ブロックでカバーするというような形でやっていけば、上に上がっていくこともできるし、責任を持てると思う。

委員6：出場範囲の見直しもそろそろ本気でやっていかないといけないと思う。先日も堀金と穂高の境の辺りで火災が起きたが、一番近いのが第4ブロック（堀金）の第13分団第2部だった。地籍が穂高だったので第4ブロック（堀金）は出場しなかったが、各ブロックの隣接地帯の所でどういう出場をしていくのかということも決めていく上で諸々が覚えてくる気がする。

また、将来的に松本消防協会長や県協会の役職が持ち回りとなって来るが、言い方は悪いが誰でもよいということで各ブロックから副団長を出してこられても対応しかねるため、将来的にそういった任を負うことに耐えられるような人材を真剣に選出していく方向で変えていかないと困るのではないかと感じている。現役の皆さんは将来的には自分に該当することになると思うので、今のうちにしっかり考えていただければと思う。

委員長：この問題は、ある程度は組織を変えていかないと決まらないということだと思う。そういう組織編制の中で考えていく。消防団も組織や出動範囲など変えようとしているということなので、その様子も見ながら、委員会としては5名体制とし、それに絡めてスリム化も行うということでもとめたいと思うがどうか。ただし、3名体制も頭に入れて進める中で、出場しやすい方向で考えていくこととしたい。

委員（団長）：団長1名の副団長4名でブロックを見直しスリム化する。今後どのような形がいいか模索しながら進めたいと思う。

委員長：消防団も既に動き出しているという中で、現在の5名体制を維持しながら進めていくということではどうか。

委員：異議なし。

委員長：次回について、12月は年末警戒激励、1月は出初式等の行事が続くため、次回は平成31年2月19日（火）午後6時半からとする。